



被爆77年 全員で黙とう



久原 大輝

1945年8月6日。人類史上初めて、原子爆弾が広島に投下された日である。前身の広島地方専売局庁舎・工場棟が被害に遭い、専売広島従業員の40人以上の方が死亡。戦後の混乱が続く中、勤務中の昼休み

に円陣パスを再開したことがきつかけになり、再び排球部の部員が集まった。

今年是被爆77年。われわれが今日もバレーボールができていることは、先人が築いてくださった、歴史と伝統のたまものである。その日の練習開始前に、猫田記念体育館横の慰霊碑にチーム全員で黙とう、代表して井上慎一郎・副主将が献花を行った。

新型コロナウイルスの感染拡大により、生活スタイルもここ数年で一変。さらに昨今の世界情勢の悪化など、暗いニュースが連日報道される中、われわれができることはバレーボールを通して、「皆さまに最高の勇気を、最大の感動をお届けすることだ」と、私は常に考えている。

バレーボールに打ち込めることに日々感謝し、チームに携わる全ての者が、自分にできることは何かを「考慮」して、広島の皆さまに愛されるチームになることを、これからも目指す。
(JT広島マネジャー)



原爆の日に黙とうする選手